

# ほ ど 教育センター通信 火床の火の心を紡ぐ

第9号（通算 103号）  
令和5年1月27日  
三条市教育委員会  
教育センター 発行



## 「変わっていくもの、変わらないもの」

教育センター指導主事 荒川 高明

英語の学習に関して、様々な学習教材やサービスが登場しています。従来の紙を使用した問題集だけでなく、子どもが教科書の音読を録音すると、発音の判定をしたり、改善点を練習したりする教材や、教科書には準拠していないものの、中学生が理解できる程度の英語で作られた様々な動画を視聴できるという教材が登場しています。さらには、海外の学校とオンラインで結び、同年代の小・中学生と英語で交流する機会を提供するというサービスも登場しています。時代の変化を感じる一例だと思います。これらはとても魅力的なのですが、これまで採用してきた学習教材に比べて値段が高く、採用する際は慎重に検討する必要があるというのが現状です。

また、今年度は、2つの新しいことが始まりました。一つ目は、児童生徒用に外国語・英語のデジタル教科書が配布されました。使用してみた感想はいかがでしたでしょうか。効果的な活用に向けて、各校で試行錯誤いただいたことと思います。デジタル教科書のもつ機能（付録等も）をあれこれ試しつつ、先生方の様々なトライ&エラーを通してよりよい活用方法を探っていただきたいと思います。

二つ目は、外国語・英語の重点教科研修を開始しました。9学園を2グループに分け、今年度は三条学園、四つ葉学園、さかえ学園、しただの郷学園で公開授業を実施していただきました。各学園・学校で指導案の事前検討や当日の運営をしていただき、大変ありがとうございました。令和5年度は三条嵐南学園、一ノ木戸ポプラ学園、瑞穂学園、三条おおじま学園、大崎学園です。どうぞよろしくお願いいたします。

どのような機器や教材を用いるにしても、主体的・対話的で深い学びのある授業を行うためには、子どもを中心とした授業づくりをすることに変わりはありません。「授業をよりよいものにしたい」と考える先生方とともに、私たちも学んでいきたいと思います。

## 学 園 紹 介

### さかえ学園

さかえ学園では、小中一貫教育推進の一環として、乗り入れ授業を実施しています。小学校教員が中学校の音楽の授業にサブティーチャーとして参加したり、中学校の教員が小学校に出向いて小学校の教員と協働で理科や体育の授業を実施したりしました。学園内の他の教職員が授業を参観する姿も見られました。

学びを重ねて成長していく子どもたちの姿から、小小、小中をつながり意識して日々の授業づくりをすることの大切さを確認する機会になりました。



7月21日(木) 栄中学校：1年生音楽の授業



10月13日(木) 大面小学校：6年生理科の授業



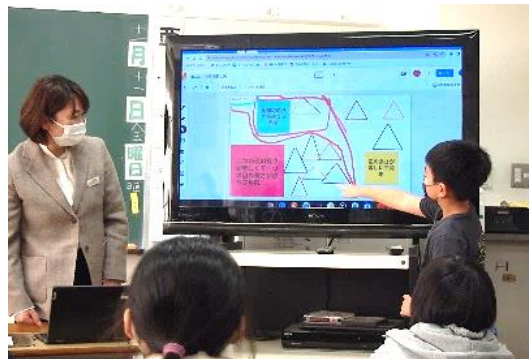
12月7日(水) 栄中央小学校：5年生体育の授業

## 三条市 ICT 教育推進モデル校の取組について

GIGA スクール構想に基づき一人一台タブレット PC 端末の導入をする国の動向に対し、その端末の授業における活用法やカリキュラム等を開発するために、令和2年度に三条市立一ノ木戸小学校を三条市 ICT 教育推進モデル校に指定しました。端末を先行導入して取り組んでもらい、定期的に ICT 教育推進委員会を開いて取組の成果や課題等を共有しながら、適宜、市内学校に情報提供をしてきました。

令和2年12月には教育センター通信で「三条市授業スタンダード」の5つの局面のそれぞれで端末の効果的な活用法を紹介し、市内学校の授業のイメージづくりに役立てました。また、日常的な実践を基に「コンピュータを使うときのルールとマナー」や「ICTを活用したカリキュラム（各単元におけるタブレットの活用例）」を検討し、令和3年4月に市内学校に提示することができました。その後、カリキュラムについては、市内学校の取組が反映され、実践知の詰まったものに改訂することができました。この他に、令和3年度は公開授業・協議会をオンラインで行いました。令和4年度（モデル事業最終年度）は公開授業・協議会を現地参集型で行い、参会者の肯定的評価が100%と充実した会となりました（右の写真は算数の公開授業の様子）。

現在、一ノ木戸小学校とこの3年間の取組を振り返って、主に授業づくり及び校内研修の工夫についてまとめています。3月に市内学校に報告する予定です。



## 三条市立科学教育センター事業について



科学教育センターは、令和4年7月24日（日）、「児童生徒の科学的思考力・創造力と探究力の育成」を基本理念として、事業をスタートさせました。これまでの「理科教育センター事業」と「科学教育推進事業」に加え、「まちやま理科学習事業」を新たに導入しました。これにより、三条市の小中学校が、特色ある理科授業のカリキュラムづくりができます。また、市民の皆さんを対象に、科学を身近に感じてもらうための科学イベントを行い、三条市の皆さんにとって、親しみやすいセンターとなるよう努めています。

科学教育センターの4つの事業は次の通りです。

### ①教員の研修会など(理科教育センター事業)

理科の授業に携わっている教員が、子どもたちに「分かりやすく・楽しく・そして確実に」観察や実験ができるように、先生方の研修・交流の手助けを行っています。



教員研修

### ②子どもの科学教室など(科学教育推進事業)

年間を通して、「科学模型工作教室」(小5、6)と「子どもの科学教室(物理、化学、生物、地学、星空)」(小5、6)、さらに「わくわく科学フェスティバル」、「科学ゼミナール」(中学生)を計画・実施しています。

### ③まちやま理科学習(科学教育センター新事業)

小学3年生から中学3年生で、理科授業の進度に合わせ、校内ではできない大型実験機材を用いて、授業を行います。学校、学年ごとに「まちやま」で、サイエンスショーと科学工作・実験を行います。

9月は、小学校6年生を対象に、「てこのしくみとはたらき」、10月は、中学校2年生を対象に、「電流とそのはたらき」、12月は、中学校3年生を対象に、「地球と宇宙」の授業を行いました。1月からは、中学校1年生の「光と音」を行っています。2月からは、小学校3年生の「じしゃくのひみつ」を行います。



まちやま理科学習

### ④各種イベント(科学教育センター新事業)

三条市民の皆さんに、気軽に参加できて、科学を身近に感じてもらえる、さまざまな科学イベントを計画して、実施しています。新潟県立自然科学館などとの合同企画もあります。



## 令和4年度 生徒指導・学校運営訪問を終えて

5月から11月に、全ての学校を1回ずつ訪問させていただきました。訪問の中で気付いた良かった点や課題などについて紹介します。

### 学校運営に関すること

- 学園ごとに小中一貫教育を意識して学校運営を進めていた。
- 授業スタンダードを軸にした授業力の向上をテーマに研修を進めていた。
- 働き方改革に様々な視点から取り組んでいた。

#### <各学校で見られた働き方改革の工夫>

- ・行事が終わったらすぐに反省をし、来年の計画を作る直後改善
- ・年度初めは忙しいので、前年度のうちに教育計画を作成
- ・働き方改革委員会を作り改革を推進、メンバーには若手を多く登用
- ・職員間の共通理解に、google classroom を活用
- ・学級だよりのフォーマットを作って共有
- ・学年部で教科を分担して教材研究
- ・時間割を作成すると時数集計が自動的にできるものを共有
- ・校時表の見直し、年間行事の見直しによる作業時間の確保

- 若手の人材育成に力を入れていた。

#### <各学校で見られた人材育成の工夫>

- ・ベテランから若手への「ミニ生徒指導研修」で様々な指導のコツを伝授
- ・管理職が若手のクラスで一単元、授業を見せる「師範授業」
- ・学年部の連携

### 授業に関すること

- 教室の前面は視覚刺激を軽減しすっきりと整えられていた。
- 学習の履歴が分かる掲示があった。
- 様々な活動の中で、積極的にICTを活用していた。
- 1時間の学習の流れを示し、見通しをもたせる工夫が見られた。
- 「学習問題◎」「まとめ」「振り返り」などの黒板用表示が、各教室に準備しており、授業スタンダードに学校体制で取り組んでいた。

『今後の課題』

- ・「三条市授業スタンダード」P.37のワークシートの活用
- ・特別支援教育の更なる理解と対応
- ・児童生徒の意見や考えの焦点化と児童生徒全員の共有
- ・一人一人の学習内容の理解を一層深めるための教師の切り返しや全員への投げ返し

学校生活の多くの時間を占めるのは授業です。児童生徒がお互いの考えに耳を傾け、受け入れられる温かい人間関係をつくり、達成感や自己肯定感を感じることができるように毎時間の授業を大切にしましょう。

望ましい態度を育てる積極的生徒指導（問題を未然に防止する指導）をよろしく願います。

訪問への御協力ありがとうございました。